

平成19年度 帰国者歓迎会

平成19年6月2日(土) アークホテルで平成19年度総会・第41回海外派遣教員の帰国を歓迎する集いが開かれました。



神田進会長のあいさつです。岡山県の海外派遣希望者が少なくなっていることに危機感を感じ、今年度は、希望者に研修会を開いて案内する計画です。

福武教育・文化振興財団から赤松康弘前会長が参与として出席されました。あいさつの後、乾杯の音頭をとってくださいました。



三村忠先生は、バンコク日本人学校に4年勤められました。3月19日の卒業式に間に合うように帰国し、御野小学校の教え子達の卒業を祝いました。1・2年生と受け持っていた子が卒業ということで、タイムスリップしたような不思議な感動を覚えたそうです。3年目の12月に、スマトラ沖の大津波が起こり、保護者や同僚の家族が犠牲になりました。一番辛く苦しい時期でした。4年目にはクーデターが起こり、軍隊や戦車を見ました。個人的には、ラグビーの日本人チームに所属し、日曜日毎に試合や練習をしました。海外に来てまでラグビーをするような人は面白い人が多く、試合で外国人と交流できたのも良い思い出です。4年目には、キッズラグビーの立ち上げも行いました。全くのボランティアで30人の子どもを指導しています。後輩に引き継いでいますが、これからも力になりたいです。

延岡康明先生は、上海日本人学校に3年勤められました。普通の海外旅行では得られない海外でせいかつするという貴重な経験をさせていただきました。上海は、大きな開発のうねりの中にあって、児童生徒数も1700人から2200人へと増えていきました。教え子の中には、中国人と日本人の混血の子も多くいました。この子どもたちが、両国の架け橋となってくれることを願っています。今では、中国がとても身近になって、卓球の国際大会などでは、日本の選手と共に、中国の選手も応援しています。この度は、帰国後、元の学校に帰って、どれだけ情熱を注いでいけるか、自分自身で挑戦していきたいと思いますので、どうぞよろしくおねがいします。



山根仁先生も、上海日本人学校に3年勤められました。上海万博、北京オリンピックと、中国は発展の真っ最中でした。勤務した日本人学校で、校長が毎年替わりました。本来の交替の他、学校が分かれたり、小学部だけの校長ができたからです。2年目には、反日デモが起こり、対応に追われました。しかし、一部の人々が騒いでいるだけで、一般の人々をはじめ、現地スタッフはとてもフレンドリーでした。3年目には、9クラスの学年主任を務め、活力になりました。日本に帰ってきて、しっかりと海外派遣で得たご恩返し活動をしたいです。

森淳先生は、広州日本人学校に3年勤められました。奥様は、休職して同行できる2例目だったそうです。1年目は通級指導担当、2年目以降は教務で担任ができず、少し寂しく感じこともあります。中国での思い出は貴重な財産となったようです。やはり、2年目にはデモが起こり、タクシーに乗る時に悪口を言われたり、乗車拒否にあたりしたそうです。サッカーのアジアカップ決勝中国対日本の試合でも、日本が優勝し試合後安全のため、何時間も缶詰状態だったそうです。日本と中国の歴史問題を認識し、友好の大切さを感じました。



川上敏先生は、カイロ広州日本人学校に2年勤められました。壮行会の時に、もう一度行きたくなると言われた通り、素晴らしい経験となりました。赴任時には、先輩の乗峯教頭の友達が来たと言って、快く受け入れてもらいました。中東は遠い世界の出来事でしたが、今ではBBCやCNNからとぎれなく報道される複雑なこの地域のことに関心をもち、世界に目を向けることができるようになったと思います。



この他に、小島鋭之先生は、大連日本人学校に3年勤められましたが、ご都合で欠席でした。この後、アトラクションとして、山本正副会長がオーストラリアのディジュリドゥーの演奏を披露してくださいました。循環呼吸をマスターし、トーキングのテクニックを駆使する熱演に、参加者から盛んな拍手がよせられました。



片山主計参与から、帰国後は辛かったことは忘れ、良い思い出ばかり残るが、日本の子どもたちのために、しっかり力を発揮してほしいと、激励がありました。



武泰稔参与からも、矢掛教育委員会の教育長として、年に数回も海外に教育視察などで渡航していること、そして希望をもって仕事するように激励されました。